

佐野短期大学シラバス2014

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
言語表現Ⅱ Language expression Ⅱ		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(保育士養成課程選択)	児童フィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
加藤美智子	非常勤 講師室	授業中に指示します		授業中に指示します
授業の概要				
言語表現Ⅱでは、言語表現Ⅰを踏まえ、より多様な児童文化財を用いて、言語の獲得環境を整理し、体験することに重点を置く。劇表現が、幼児に対して言語を獲得するうえで必要なプロセスであることを実際に学ぶ。				
授業の目標				
児童文化財全般についての理解を深めるとともに、特に平面のパネルシアターや絵本などから移行し、立体に移り変わる場合に、幼児がどのような視点で、劇表現を見るか、幼児の視点に立って考える。各自が人前で児童文化財をつかった表現をできるようにする。				
授業の方法				
制作と実施を軸に、講義形式をとる。各自がそれぞれのテーマに沿って、制作し発表を重ねる。保育現場を意識した実践の授業とする。各自のまとめを提出することと、制作した作品を予定日までに提出する。				
学習の成果(学習成果)				
①言語取得に欠かせない絵本、パネルシアター、エプロンシアター、人形劇を軸とした媒体のそれぞれの特徴を理解し、技術を会得することができる。 ②保育現場に活かせる劇表現を学ぶことができる。 ③人形劇の表現の可能性を模索し、劇が幼児に与える影響を感じ取るにより、それをまとめることができる。 ④丸玉人形は制作のみに終始せず、劇表現の基本をきちんと体得し、人形劇作品が発表できる。 ⑤幼児が心から開放されるとき、笑顔が広がる。その体験を自主的に行動し体得することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	劇と子ども および 外部講師による表現活動鑑賞(NPO法人表現遊び開発教育研究所加盟会員)			
第2回目	封筒人形制作①(デザインと造形)			
第3回目	封筒人形制作②(作品発表)			
第4回目	牛乳パック人形の製作①			
第5回目	牛乳パック人形の製作②			
第6回目	人形劇製作①(丸玉人形のプランおよびイメージイラストをつくる)			

第7回目	人形劇制作②(丸玉人形のパーツを作る)		
第8回目	人形劇制作③(丸玉人形の全体と細部をつくり、バランスをみるー1)		
第9回目	人形劇制作④(丸玉人形の全体と細部をつくり、バランスをみるー2)		
第10回目	人形劇発表①(実際に舞台や効果音を使った発表)		
第11回目	人形劇発表②(実際に舞台や効果音を使った発表)		
第12回目	人形劇発表③(小道具などを使った効果的な劇表現)・指示された成果物の提出(提出は第14回目の授業日)		
第13回目	エプロンシアターの演じ方①		
第14回目	エプロンシアターの演じ方②		
第15回目	絵本・パネルシアター・エプロンシアター・人形劇など表現媒体をつかった発表		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
	授業参加態度	20%	指示された準備物品は事前に準備して授業に臨んでいる。成果物はテーマのもとに制作する。発表は積極的に臨む。授業は私語を慎み真剣に臨む。欠席は理由書を提出のこと。遅刻早退は理由を述べること。
	レポート	30%	各自がまとめたノートまたはファイルを指示された時期に提出する。
	調査報告書		
	小テスト		
	試験		
	発表内容(態度含む)	40%	実践を多く踏むために、発表に積極的に臨むこと。
	その他	10%	社会的活動に対して、積極的に行動している。
教科書と参考図書			
授業担当者より適宜指示または資料などを配布する。			
履修上の留意点・ルール			
授業には、真剣にかつ真面目に臨むこと。無断欠席は認めない。必要なものは必ず準備して授業に臨むこと。作品は必ず提出すること。			